

平成27年2月5日（木）  
平成26年度 第8回  
大阪府河川整備審議会

参考資料 5

# 春木川水系河川整備計画（変更原案） についての住民説明会

平成26年1月14日(水) 19時～21時  
春木市民センター  
15日(木) 19時～21時  
桜台市民センター

本説明資料は、大阪府河川室ホームページでも見ることができます。  
(アドレス [http://www.pref.osaka.jp/s\\_kasen/](http://www.pref.osaka.jp/s_kasen/))

中央公園を流れる春木川

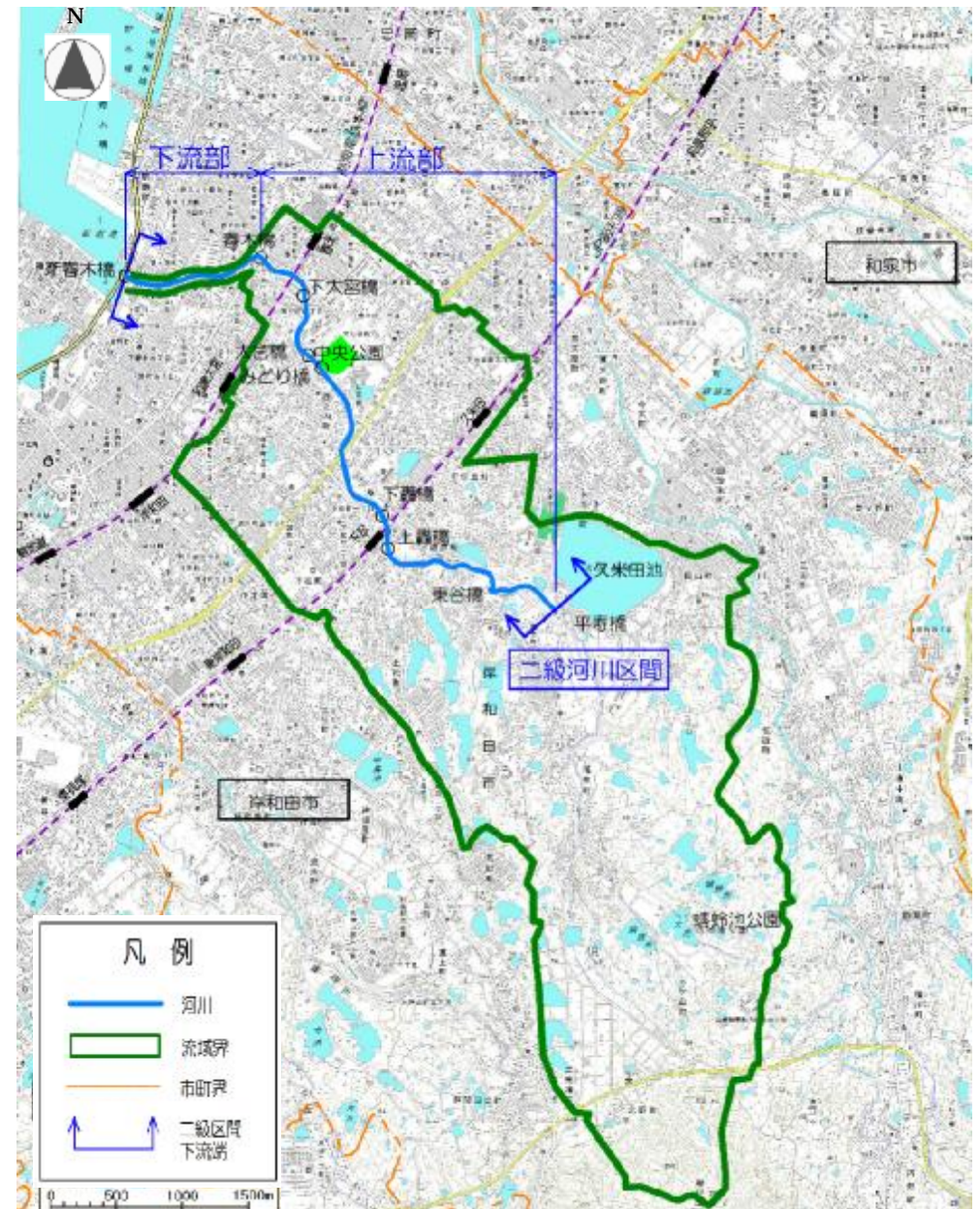


# 1. 春木川水系（流域）について

## 流域の概要

春木川水系は、その源を大阪府岸和田市の神於山に源を発し、山間部を北方向に流下し、尾生町付近で北西方向に曲流し大阪湾に注ぐ二級河川です。

- Ⅰ 流域市町：岸和田市
- Ⅰ 指定区間延長 5.7km
- Ⅰ 流域面積 14.4km<sup>2</sup>
- Ⅰ 春木川流域内に約55カ所のため池がある。
- Ⅰ 流域内の土地利用は、宅地の占める割合が高く、上流域には歴史的資産がある。



## 2. 河川整備計画とは

### 河川整備基本方針・計画

#### 【河川整備基本方針とは】

○河川整備基本方針とは、将来の川のあるべき姿や河川整備の長期的な基本となる方針（治水・利水・環境）を定めたもの。

#### 【河川整備計画とは】

○河川整備基本方針に基づき、概ね20～30年間で計画的に行う河川の整備や管理に関する具体的な目標や内容を定めたもの。

※河川法により、河川管理者は河川整備基本方針・河川整備計画を定めることとされている。  
春木川水系では、H19.12月に河川整備基本方針、H20.2月に河川整備計画を策定。

### 3. 春木川水系河川整備計画の変更にあたって

#### ■春木川水系河川整備計画の策定（H20.2月）

- 春木川水系の河川整備の当面の目標を定めたもの。
- 計画対象期間：概ね10年

• H22年に大阪府が策定した「今後の治水対策の進め方」に基づき、治水計画の見直しを行ったこと

• 東南海・南海地震及び南海トラフ巨大地震を対象とした護岸、堤防の耐震対策の実施が必要であること

など

■春木川水系河川整備計画（変更）の策定を行う。

### 3. 春木川水系河川整備計画の変更にあたって

#### 春木川水系河川整備計画の主な変更点

■ 「今後の治水対策の進め方」に基づき、治水・利水・環境の取り組みを見直し

■ 当面の治水目標を新たに設定

⇒春木川では一部の護岸未設置の箇所は残っているものの、時間雨量80ミリ程度※1の降雨を安全に流下させることができることから、現状の治水能力を維持。

■ 計画対象期間を変更

⇒概ね10年から概ね30年に変更

■ 東南海・南海地震及び南海トラフ巨大地震を踏まえた地震・津波対策の実施を追加

■ 住民が的確な避難行動をとれるよう河川情報の提供に関する事項を充実

⇒洪水リスク表示図、雨量・水位データの公表、住民の安全な避難行動・地域防災活動の支援など

※1 時間雨量80ミリ程度の降雨は、100年に一度発生する恐れがある降雨

### 3. 春木川水系河川整備計画の変更にあたって

#### 河川整備計画の策定フロー

河川整備計画（変更原案）

← 学識経験者からの意見

大阪府河川整備審議会※（および治水部会など）  
において審議

← 住民の皆様からのご意見

本日

内容の説明およびご意見の聴取

河川整備計画（変更原案） 住民の皆様のご意見を反映し修正したもの

河川整備審議会にて了承の場合

河川整備計画（変更案）

← 地方公共団体の長の意見

← 国土交通省の同意・認可

河川整備計画 策定



## 4. 大阪府の新たな治水対策の考え方

### 今後の治水対策の進め方（H22.6策定）

【基本的な理念】 人命を守ることを最優先とする。

【取組み方針】

- (1)現状での河川はん濫・浸水の危険性に対する府民の理解を促進する。
- (2)「逃げる」「凌ぐ」施策を強化するとともに、「防ぐ」施策を着実に実施する。
- (3)府民が対策の効果を実感できる期間（概ね10年）で実現可能な対策及び実施後の河川はん濫・浸水の危険性をわかりやすく提示する。

【当面の治水目標（今後20～30年）の設定】

○時間雨量50ミリ程度※<sup>1</sup>の降雨で床下浸水を発生させない。かつ、事業効率等を考慮し時間雨量65ミリ程度※<sup>2</sup>もしくは時間雨量80ミリ程度※<sup>3</sup>の降雨で床上浸水を発生させない。

【河川情報の提供】

○住民が的確に避難行動がとれるよう、河川氾濫や浸水に対する情報提供に努める。

※<sup>1</sup> 時間雨量50ミリ程度の降雨は、10年に一度発生する恐れがある降雨

※<sup>2</sup> 時間雨量65ミリ程度の降雨は、30年に一度発生する恐れがある降雨

### 将来目標（長期計画）

○府管理の全河川について、時間雨量80ミリ程度※<sup>3</sup>の降雨でも、川があふれて、家が流され、人がなくなるようなことをなくす。

# 4. 大阪府の新たな治水対策の考え方

地先の危険度  
低減に向けた

## 総合的・効果的な治水手法の組合せ

### 流出抑制

雨が降っても河川へ出る水量を減らす。  
(家庭での貯留施設の設置やため池の治水活用など)

### 治水施設の保全・整備

河川堤防の決壊によるはん濫をできるだけ回避するなど、  
河川を流れる水は可能な限りあふれさせない。  
(河川改修・堆積土砂除去など)

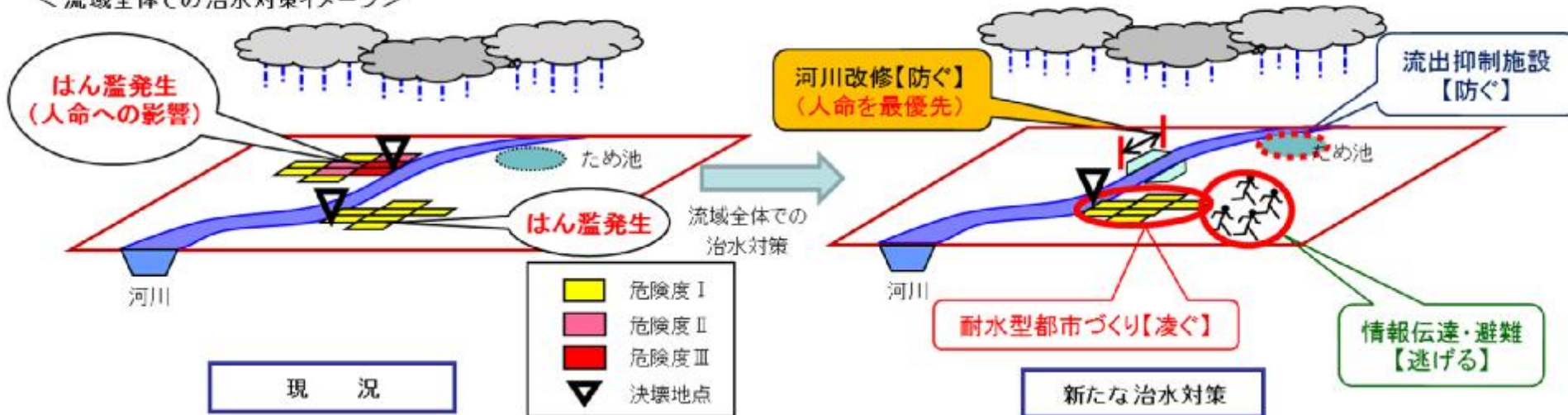
### 耐水型都市づくり

河川からあふれても被害が最小限となる街をつくる。  
(家屋の耐水化・高床化などの促進)

### 情報伝達・避難

河川からあふれそうなときはできるだけ早く逃げる。  
(洪水はん濫・浸水による危険性の周知、流域市と連携した避難体制づくりの促進など)

<流域全体での治水対策イメージ>





## 5. 春木川水系河川整備計画（変更原案）の内容について

### 第1章 河川整備計画の目標に関する事項

第1節 流域及び河川の概要

第2節 河川整備の現状と課題

第3節 流域の将来像

第4節 河川整備計画の目標

1. 洪水、高潮等による災害の発生の防止または軽減に関する目標
2. 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標
3. 河川環境の整備と保全に関する目標
4. 河川整備計画の計画対象区間
5. 河川整備計画の計画対象期間
6. 本計画の適用

### 第2章 河川整備の実施に関する事項

第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

第2節 河川の維持の目的、種類及び施行の場所

### 第3章 その他河川整備を総合的に行うために必要な事項

第1節 地域や関係機関との連携に関する事項

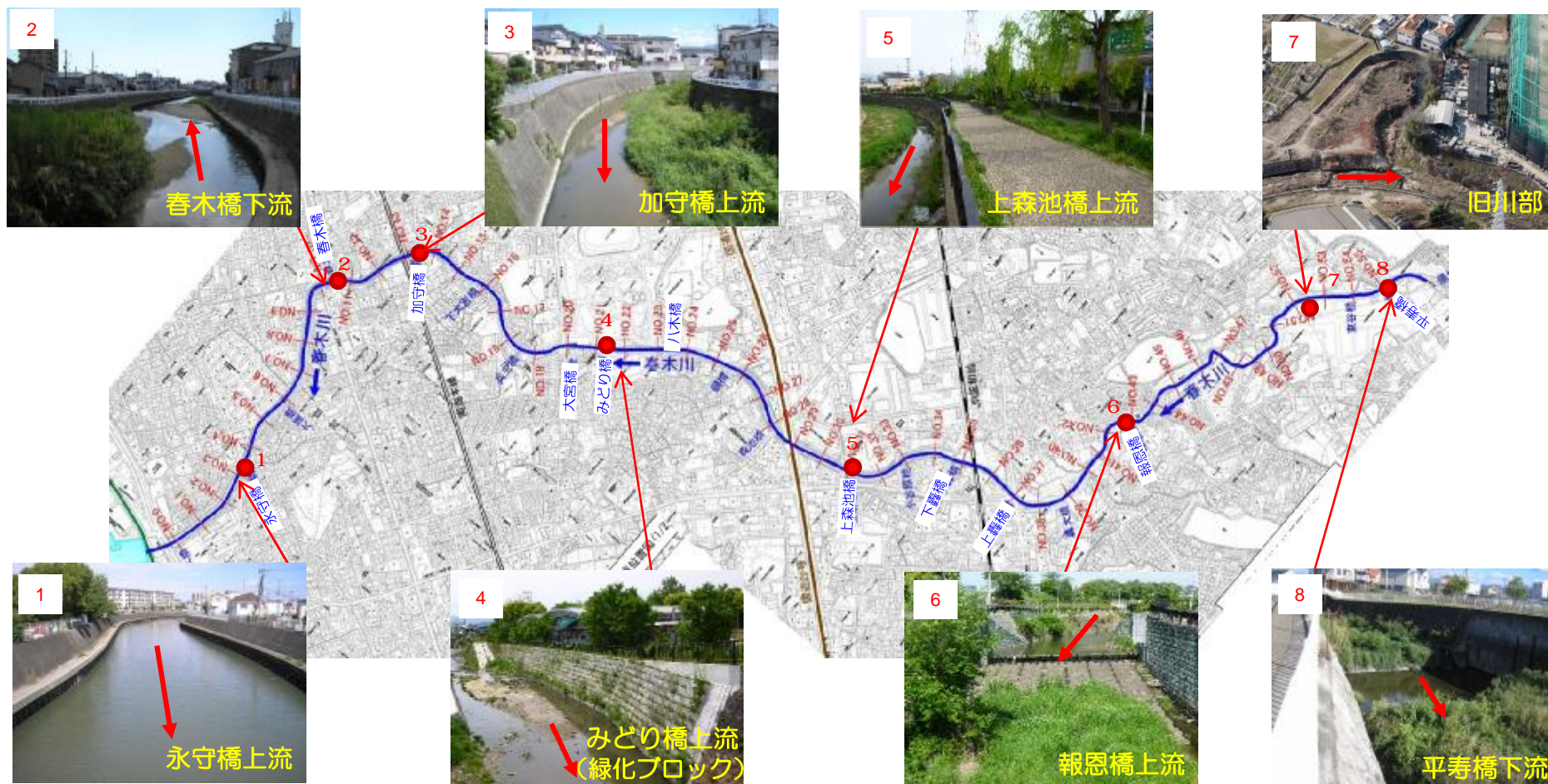
第2節 河川情報の提供に関する事項

# 6. 春木川流域の現状について

## 河川の特徴

下流部（河口～春木橋）：感潮区間であり、工場や住宅地が密集している市街地を流れている。河道内の植生はほとんどみられない。

上流部（春木橋～平寿橋）：住宅地や農地を流れている。春木川緑道が整備され、旧川部が残っている。瀬や淵が形成され植物が繁茂。



下流部  
(高潮対策区間)

河口～春木橋 L=1.0km

上流部

春木橋～平寿橋 L=4.7km

## 6. 春木川流域の現状について

### 自然環境特性

- Ⅰ 気候は、温暖で降水量の少ない瀬戸内式気候に属し、年平均降水量は全国平均と比較して少ない。
- Ⅰ 春木川は、市街地を流れており、貴重な水辺空間となっているとともに、魚類や水生生物、水辺の植生等が生息している。

- Ⅰ 魚類：コイ、ギンブナ、ボラ、スズキ、ブルーギル、ブラックバスなど
- Ⅰ 底生生物：ヒラマキミズマイマイなど
- Ⅰ 鳥類：クサシギ、イソシギ、カワセミ、など
- Ⅰ 植物：クサヨシ、ミゾソバ、など
- Ⅰ 貴重な種：ドジョウ、メダカ、マジジミ、ハイタカフジバカマ、カワヂシャなど





## 6. 春木川流域の現状について

### 歴史・文化

春木川の周辺は、戦時中も大きな空襲を受けなかったため、多くの文化財があります。上流部には久米田池（行基の発願で730年頃作られたとされる泉州随一の大池）を中心として、久米田古墳群があり、下流部には、国指定の重要文化財である兵主神社本殿など仏閣等があります。その他にも、流域内には、府営蜻蛉池公園、市営中央公園など自然に親しめる大規模な公園が整備されています。また、観光資源としてまちの歴史をうかがわせる「岸和田だんじり会館」や「きしわだ自然資料館」、「岸和田城跡」があります。



久米田寺



岸和田だんじり会館



岸和田城跡



兵主神社本殿



無名塚古墳



久米田池

## 7. これからの春木川流域での取り組みについて

### 治水の現状と課題

#### 過去の被害状況

- Ⅰ 昭和25年のジェーン台風：流失家屋6戸、床上浸水611戸、床下浸水1300戸（岸和田市）
- Ⅰ 昭和42年7月の集中豪雨：床上浸水55戸、床下浸水105戸（春木川の河口部）
- Ⅰ 昭和57年8月の台風10号：床上浸水15戸、床下浸水225戸
- Ⅰ 平成元年9月の台風22号：床上浸水34戸、床下浸水108戸



高潮対策区間については、伊勢湾台風級の超大型台風に対応できる防潮堤防が、平成3年度に完成しています。

現在では、一部の護岸未設置箇所があるものの、時間雨量80ミリ程度の降雨を安全に流下させることができる河川整備が完成しています。

平成21年3月に策定した大阪府都市整備部地震防災アクションプログラムに基づき地震・津波対策を実施中です。さらに、東日本大震災を踏まえた南海トラフ巨大地震に対する照査を実施し、その結果に基づき、対策を行う必要があります。

## 7. これからの春木川流域での取り組みについて

### 河川利用及び河川環境の現状・課題と目標

|      | 現状・課題   | 目標   |
|------|---|--|
| 水質   | <ul style="list-style-type: none"><li>環境基準はD類型（環境基準値BOD8mg/L以下）に指定。</li><li>平成15年度以降、環境基準を満足しており、現在はC類型（環境基準値BOD5mg/L以下）に達している。</li><li>魚類生息や親水性の向上の観点から見ると、更なる改善が必要。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>下水道等の関係機関や、地域住民と連携し、より一層の改善を目指す。また河川で活動している地域住民やNPO等と連携し河川美化、環境教育などにより水質の改善を目指す。</li></ul> |
| 水利用  | <ul style="list-style-type: none"><li>農業用水にのみ利用されており、4件の灌漑用の水利権がある。</li><li>これまでに大きな渇水被害は生じていない。</li></ul> 安定的な水資源の確保に向け、今後も適正かつ効率的な水利用が図られるよう努める必要がある。                         | <ul style="list-style-type: none"><li>今後とも、適正かつ効率的な水利用を目指す。</li></ul>  |
| 空間利用 | <ul style="list-style-type: none"><li>アドプト・リバー・プログラム、地域住民などより、清掃活動等が行われてる。</li><li>美化清掃活動時には、可搬式の梯子によって河道内へ立ち入る状況であり、河道内へのアクセスを改善する必要がある。</li></ul>                             | <ul style="list-style-type: none"><li>関係機関や地域住民と連携し、川に近づくための階段等の整備を図るなど、川と人との豊かなれあい活動の場の維持・形成を目指す。</li></ul>                     |



## 7. これからの春木川流域での取り組みについて

|        | 現状・課題  | 目標   |
|--------|--|--|
| 自然環境   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市街地を流れており、貴重な水辺空間となっているとともに、魚類や水生生物、水辺の植生等が生息しているが、縦断的な不連続が存在しており、生物の移動を妨げているため改善する必要がある。</li> <li>・中流部や上流部の瀬や淵などの河川特有の自然環境が残る箇所については、今後の維持管理等の際には、それらの保全、再生について配慮する必要がある。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「河岸やみお筋の保全」、「上下流の生物移動の連続性確保」河川毎の特性に応じ、多自然川づくりを取り入れ、それぞれの河川が本来有している生物の生息・生育環境の保全・再生を目指す。</li> </ul>                         |
| 景観・親水性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・下流部では、鋼矢板と上部のコンクリート擁壁による護岸が連続するため、全体的に人工的な景観となっている。工場や住宅が密集している箇所を流れており整備の際には、周辺の景観との調和に配慮する必要がある。</li> <li>・中流部から上流部にかけて、オープンスペースとなっている中央公園内を流れる区間や、2箇所の旧川部では、河畔林など多くの自然環境が残っているが、水辺に近づける箇所が少ないことから、親水性の向上など配慮する必要がある。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・下流部は、住宅密集地域のオープンスペースであることから連続するコンクリート擁壁護岸の周辺の景観との調和を目指す</li> <li>・中流部や上流部では、水辺に近づくことが可能な中央公園部や旧川部等で、親水性の向上を目指す。</li> </ul> |

## 7. これからの春木川流域での取り組みについて

### 流域の将来像

#### 将来ビジョン・大阪

Ⅰ 「明るく笑顔あふれる大阪」を将来像

- ◆みどりの風を感じる都市構造の形成
- ◆生物多様性が確保できる豊かな自然環境の保全
- ◆河川環境の改善等による水と緑のネットワークの創造
- ◆ゲリラ豪雨対策等の総合的治水対策

#### 新環境総合計画

Ⅰ 「緑の風を感じる大阪」を目指す

- ◆河川では持続的かつ多様な河川環境の創出、緑化、景観形成などが求められている

#### 岸和田市都市計画マスタープラン

- Ⅰ 和泉山脈、神於山やその周辺に広がる果樹園、春木川水系など水とみどりが織り成す環境を次世代に継承
- ◆河川やため池などの水辺を適切に保全し、動植物の生息に配慮した水辺環境の回復が目標



春木川では、災害防止の観点から適切な維持管理、整備を行うとともに、自然環境の保全、水質の改善、親水空間の創出を進めるなど、水とみどりと調和した快適で魅力のある水辺空間の形成を図ることとします。

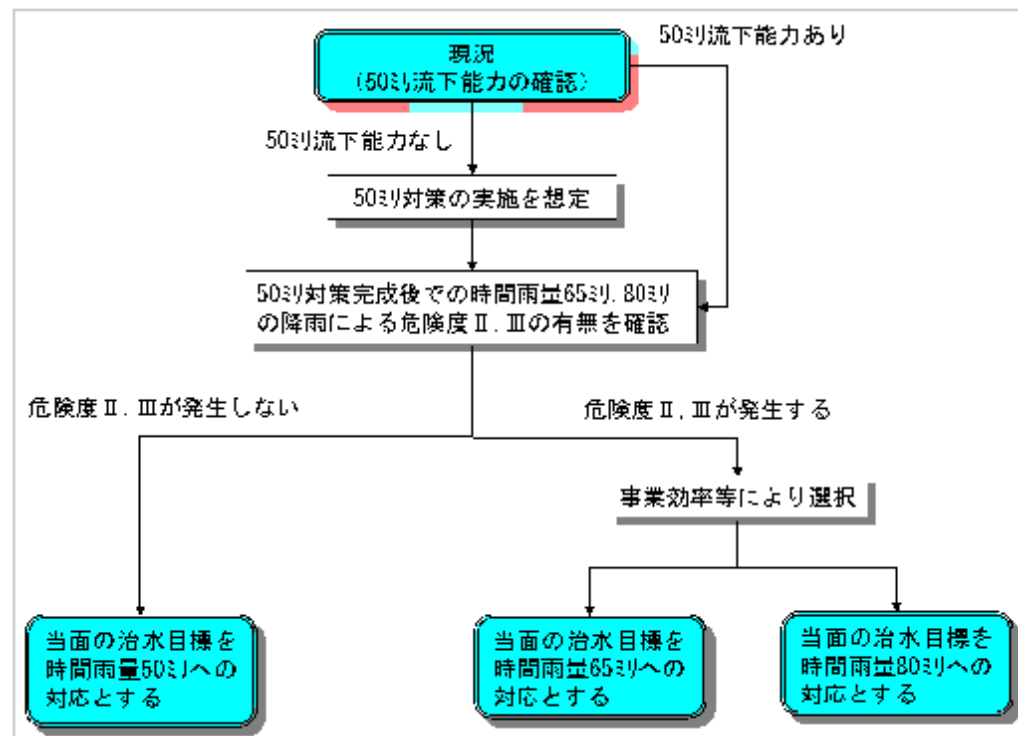
# 7. これからの春木川流域での取り組みについて

## 河川整備計画の目標

大阪府域での今後20～30年程度で目指すべき当面の治水目標を河川毎に設定し、大阪府全域で時間雨量50ミリ程度)の降雨に対して床下浸水を防ぎ得るような河川整備を進めることを基本とします。

その上で、時間雨量65ミリ程度および時間雨量80ミリ程度の降雨で床上浸水以上の被害の恐れがある場合には、事業効率等を考慮して、時間雨量65ミリ程度もしくは80ミリ程度のいずれかの降雨による床上浸水を防ぐことを整備目標として選択することとしています。

春木川については、一部の護岸未設置の箇所は残っているものの、時間雨量80ミリ程度の降雨を安全に流下させることができることから、現状の治水能力を維持します。



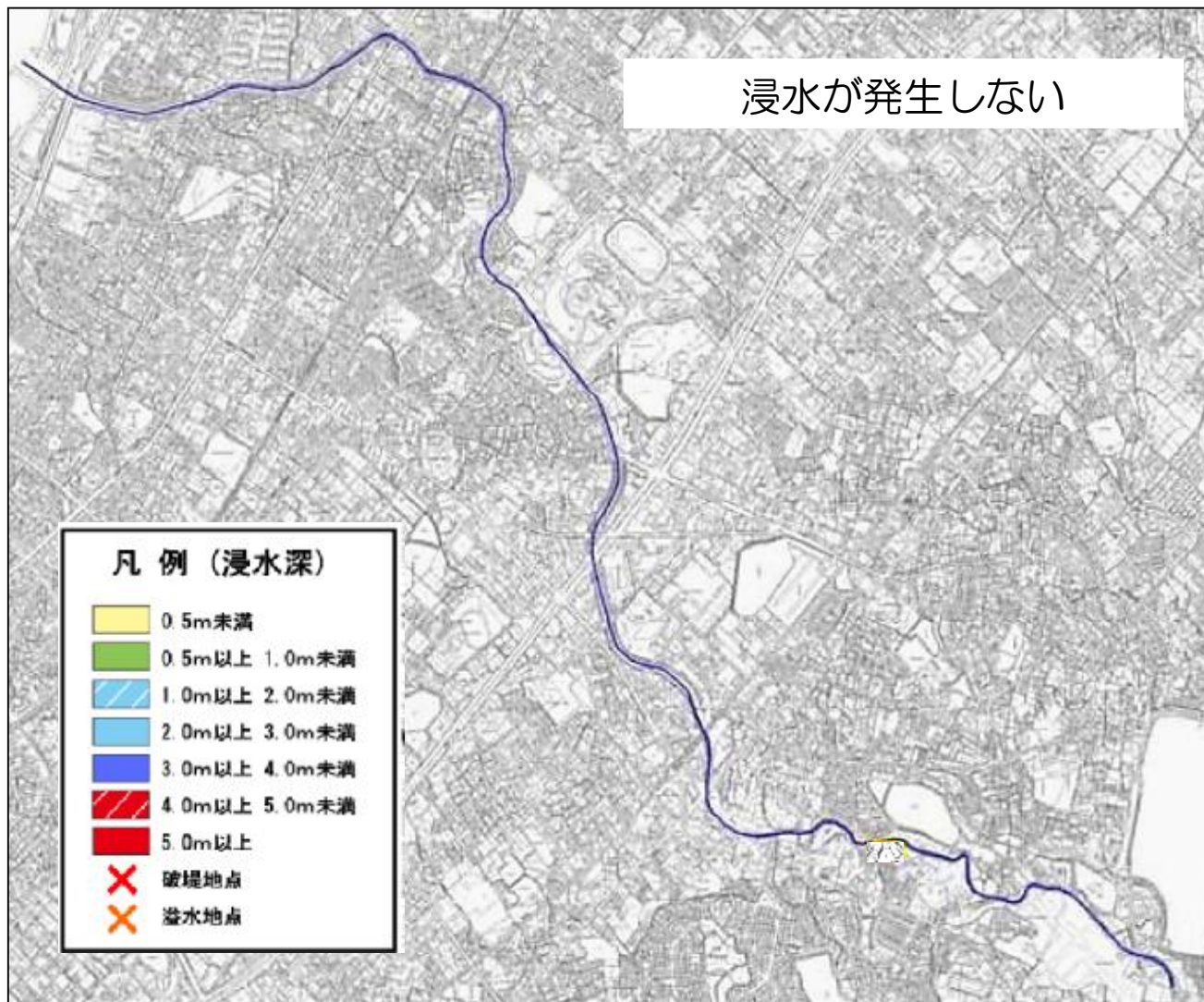
当面の治水目標設定フロー



# 7. これからの春木川流域での取り組みについて

## 氾濫想定

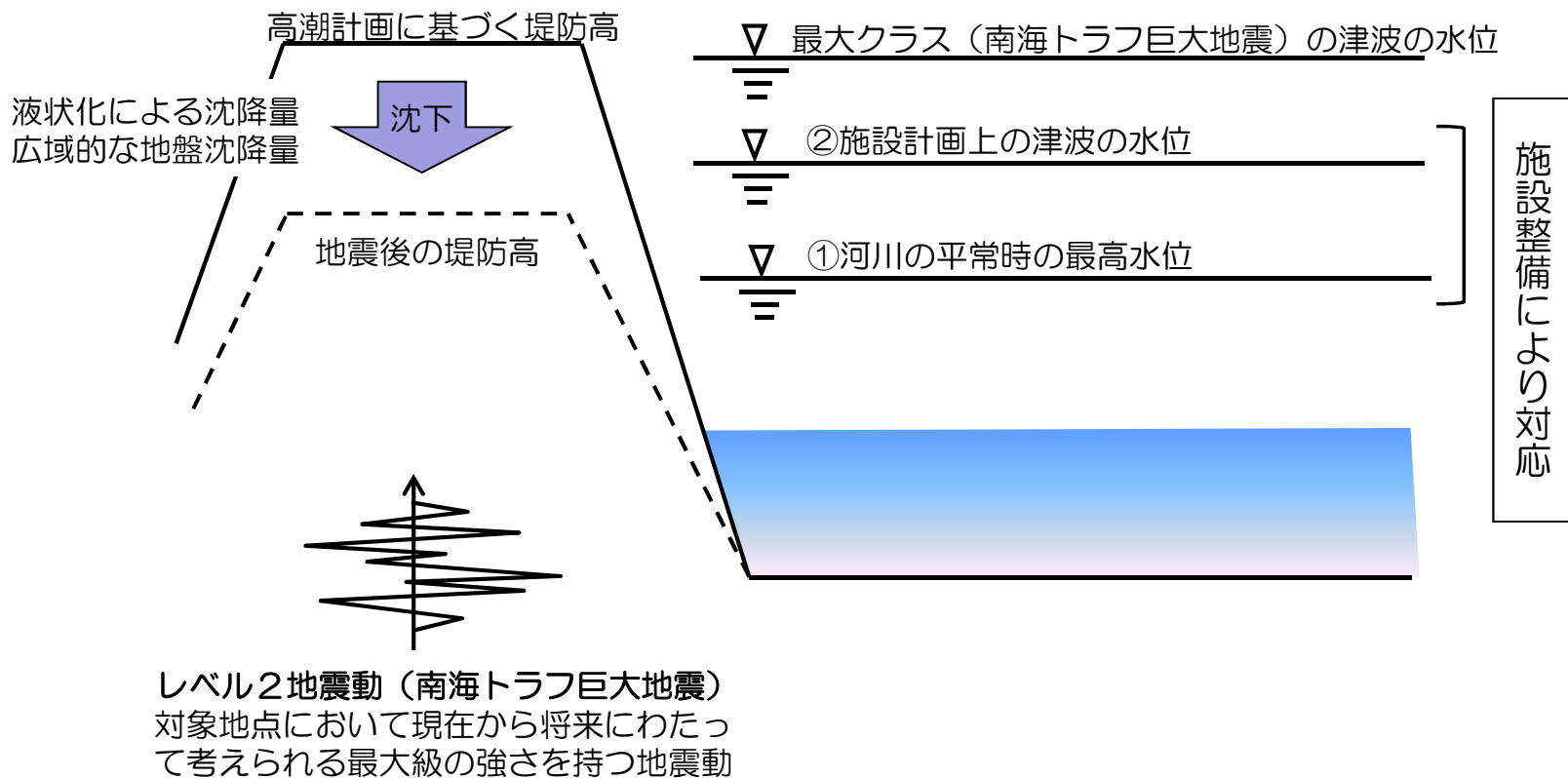
現状の春木川で時間雨量80ミリ程度の雨が降った場合



# 7. これからの春木川流域での取り組みについて

## 地震・津波対策

- I 河口部の護岸・堤防は、L2地震動による堤防の沈下等を考慮したうえで、L1津波が越流しないよう耐震対策を実施します。
- I L1津波を超える津波に対しては、津波が天端を越流した場合であっても、護岸・堤防等の河川管理施設が破壊、倒壊するまでの時間を少しでも長くする、あるいは、同施設が完全に流出した状態である全壊に至る可能性を少しでも減らすといった減災効果が発現できるよう粘り強い構造となるよう検討を行います。

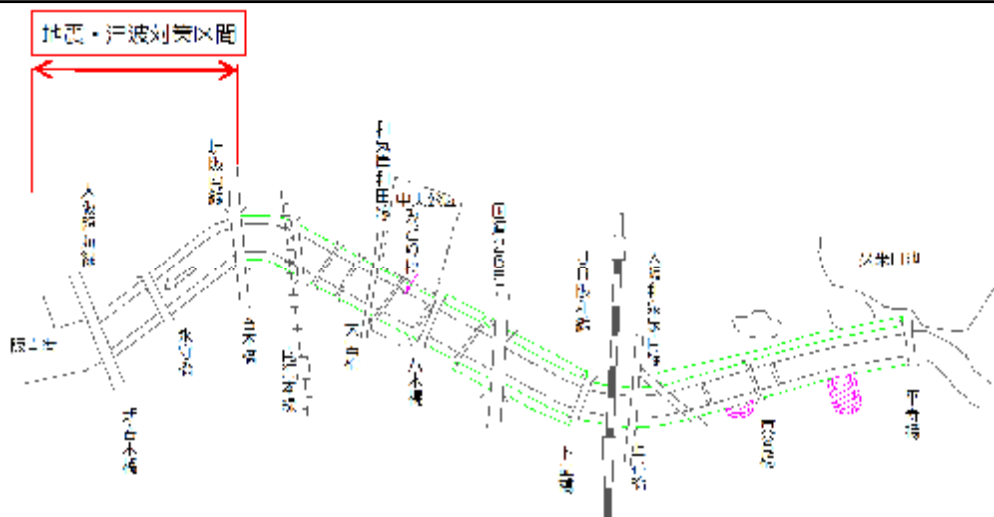


# 7. これからの春木川流域での取り組みについて

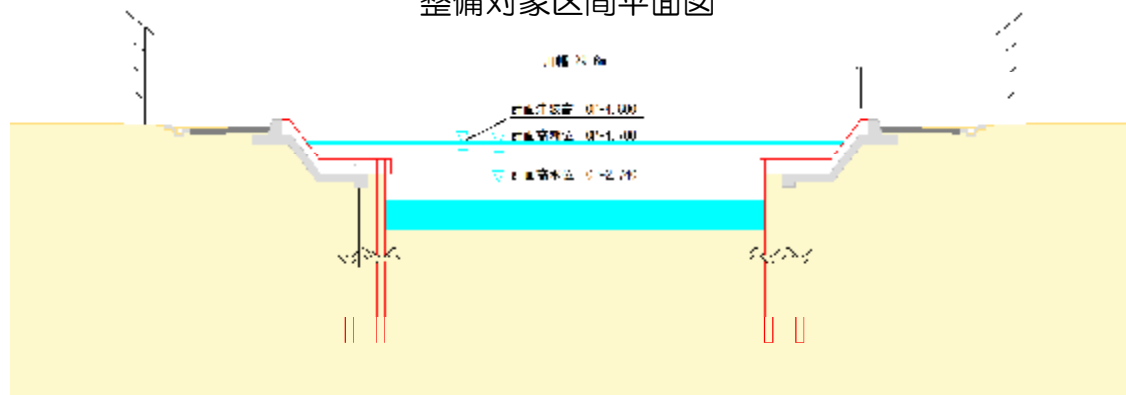
## 地震・津波対策 整備内容

整備対象区間と整備内容

| 整備対象区間 | 延長         | 整備内容  |
|--------|------------|---|
| 河口～春木橋 | 約<br>1.0km | 鋼矢板を打設し、既設護岸と一体化したコンクリート擁壁護岸となる護岸補強を行います。その際には、単調なコンクリート構造物が連続することから、周辺の住宅地の景観との調和に配慮します。 |



整備対象区間平面図



整備断面例(0.3km付近)



## 7. これからの春木川流域での取り組みについて

### 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持の内容

I 継続的な雨量、水位の観測データの蓄積と分析による水量の状況把握を行う。

### 河川環境の整備と保全の内容

#### (1)水質の改善

生活排水による河川への負荷軽減に向けた環境教育の推進及び啓発活動等を進め、水質改善に努める。

#### (2)空間利用

地域住民の河川周辺の利活用が活発な区間では、河道内へのアクセスポイントの確保など親水性の向上に努める。

#### (3)自然環境

瀬や淵の形成に配慮するなど、可能な限り自然環境の保全を図り、動植物の生息・生育環境の保全・再生に努める。

#### (4)景観・親水

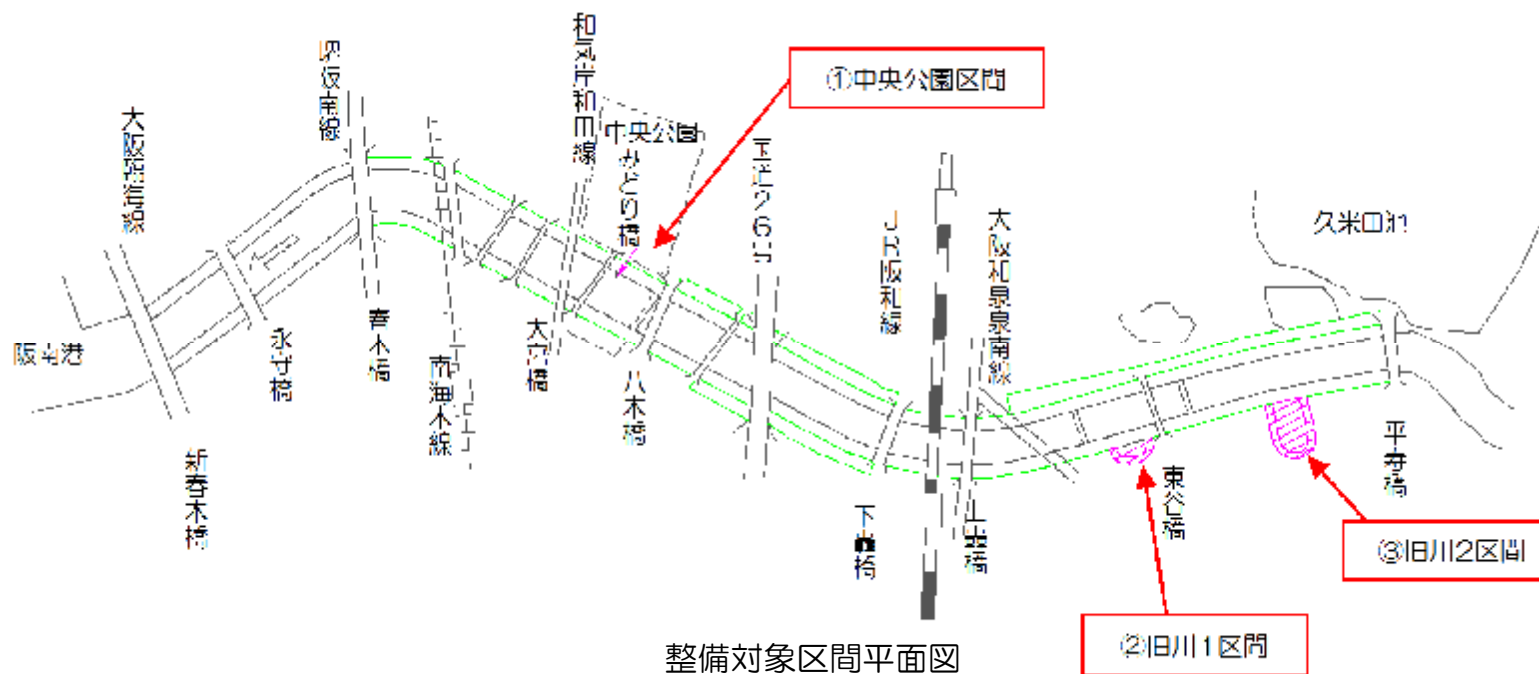
上流部で親水性に配慮した整備を行うにあたっては、岸和田市、地域住民と連携して整備内容を検討、実施する。

# 7. これからの春木川流域での取り組みについて

## 親水性に配慮した整備

整備対象区間と整備内容

| 整備対象区間               | 整備内容  |
|----------------------|---|
| ①中央公園区間<br>延長 約90.0m | 階段やスロープを設置し、公園と一体となった親水広場として整備を行います。緩傾斜護岸や水路を設置し、親水性の向上を図るとともに、周辺の景観との調和に配慮します。 |
| ②旧川1区間<br>延長 約40.0m  | 川に接することができる広場として、緩傾斜の法面の設置など親水性の向上を図ります。また河畔林等の植生の保全を図るとともに周辺の景観との調和に配慮します。     |
| ③旧川2区間<br>延長 約30.0m  |   |



# 7. これからの春木川流域での取り組みについて



①イメージ図



②イメージ図

整備対象区間 完成予想図



③イメージ図



## 7. これからの春木川流域での取り組みについて

### 河川の維持管理

- Ⅰ 施設の定期点検や必要に応じた緊急点検を実施し、構造物の損傷、劣化状況の把握
- Ⅰ 人命を守ることを最優先に、危険度の高い箇所から計画的に補修
- Ⅰ 許可工作物の管理者に対しても、適切に点検を実施し、維持修繕を行うよう周知徹底
- Ⅰ 河川の土砂堆積、植生の繁茂及び河床低下については、その状況を定期的に調査し、計画的な維持管理、対策
- Ⅰ 被災した際には、二次災害を防止するために応急的な対策を行い、出水後速やかに機能回復
- Ⅰ 河川区域で違法に行われている耕作、工作物の設置等を監視・是正するため、定期的に河川巡視、地域や関係機関との連携により、監視体制を重層化
- Ⅰ 不法投棄等のゴミに対して、河川巡視等において適宜回収、岸和田市と連携した河川巡視、地域住民、ボランティア団体、自治体等と協働で定期的な河川美化活動



護岸未設置



河道内の土砂堆積

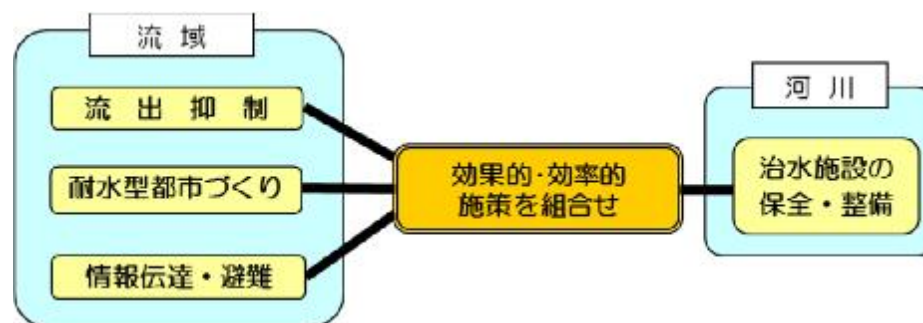
# 7. これからの春木川流域での取り組みについて

## 地域や関係機関との連携

- 治水へのため池の活用手法を検討
- 調整池等の流出抑制施設を恒久的に存続させる制度を検討
- 水源涵養・保水機能維持のための農地・森林の保全
- 家屋の耐水化や望ましい土地利用を誘導する等の制度検討
- 各戸貯留施設の設置により流出量を低減させるなどの意識を向上させる啓発活動
- 様々な情報提供を行う
- 河川愛護活動などの取組みを積極的に支援
- 水辺空間を活用した地域活動の発展と、同様の活動が広がるよう、多様な主体との協働・連携



アドプト・リバー・プログラム  
(河川敷等の清掃活動)



# 7. これからの春木川流域での取り組みについて

## 河川情報の提供

- 河川氾濫・浸水・地震・津波に関する情報については、住民が的確に避難行動をとれるよう、岸和田市と連携した情報提供の実施
- 情報提供にあたっては、行政からの一方的なものにとどまらず、地域特性に応じたものとなるよう、ワークショップ等を通じて、住民からの過去の浸水被害等の情報を取り入れ構築
  - ① 現状の河川氾濫・浸水による危険性の周知
  - ② 必要な情報の提供及び伝達
  - ③ 住民の防災意識の醸成

## 具体的な取り組み

- ①現状の河川氾濫・浸水による危険性の周知
- ②必要な情報の提供・伝達（洪水リスク図、地域単位のワークショップ等）
- ③住民の防災意識の醸成
- ④ホームページ、地上波デジタル放送等での情報提供



地域版水防災マップのイメージ



まち歩きの状態



手作りハザードマップと作成風景





# 7. これからの春木川流域での取り組みについて

## 1) 洪水はん濫・浸水の危険性の周知

- I 現況での洪水はん濫・浸水の危険性に対する地域住民の理解を促進するため、春木川水系では洪水リスク表示図を開示しています。
- I この表示図では、現況の河道で時間雨量50ミリ程度（約1/10）、時間雨量65ミリ程度（約1/30）、時間雨量80ミリ程度（約1/100）、時間雨量90ミリ程度（約1/200）降雨時の4パターンのはん濫解析結果を危険度（3段階）、最大浸水深（7段階）の2パターンで表示します。

### 洪水リスク表示図

【大阪府 洪水リスク表示図】 <http://www.river.pref.osaka.jp/>

家にパソコンがなくても、岸和田市役所、大阪府岸和田土木事務所などで閲覧できます。



地先における河川氾濫や浸水の可能性を確認できます。



各土木事務所での洪水リスク表示図の開示状況

# 7. これからの春木川流域での取り組みについて

## 2) 大阪府などによる情報提供

- 1 大阪府では、河川のはん濫や浸水に対して、流域関係市町と連携し、府民が的確に避難行動を取れるよう情報提供をしていきます。

### 防災情報

#### 【おおさか防災ネット】

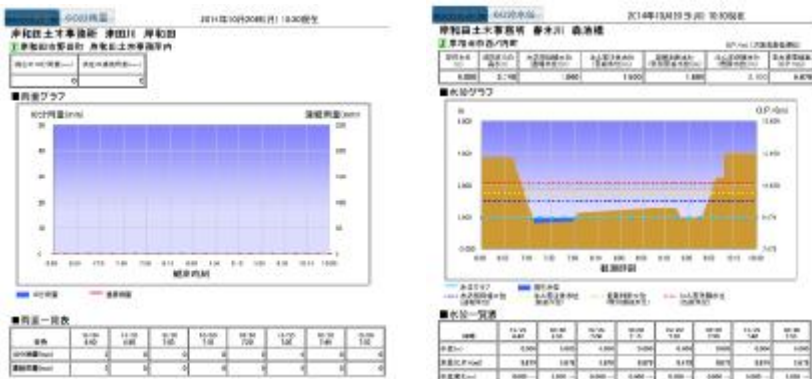
<http://www-cds.osaka-bousai.net/pref/index.html>



緊急情報、避難勧告・指示、地震津波情報などを提供しています。

#### 【大阪府都市整備部河川室 河川防災情報】

<http://www.osaka-kasen-portal.net/suibou/index.html>



春木川流域の雨量、流域内主要河川の水位状況などを確認できます。



防災情報を携帯電話で入手できます。下のQRコードを携帯電話で読み込むか、下記アドレスを入力し、空メールを送信してください。

#### 防災情報メール

地域に発令された警報・注意報、避難勧告など、防災情報をメールで携帯にお知らせします。  
[touroku@osaka-bousai.net](mailto:touroku@osaka-bousai.net)



#### 川の防災情報

雨雲の動きや全国の川の水位などの情報を携帯電話で入手できます。  
<http://i.river.go.jp/>  
直接アクセスしてください。



#### 大阪府河川情報

身近な河川の水位や雨量の情報を携帯電話で入手できます。  
<http://www-cds.osaka-bousai.net/suibou/mobile/index.html>  
直接アクセスしてください。

